

平成30年度 野田市文化会館、野田市野田公民館及び野田市
中央コミュニティ会館指定管理者管理運営状況調書

担当課 社会教育課

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用が確保されること	①平等利用確保への取組	B	B	
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	①サービス改善への取組	B	B	
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護への取組	B	B	
緊急時の危機管理体制が確立されているか	①緊急時の危機管理への取組	B	B	
	②要望、苦情への取組	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る収支見込について	B	C	
	②経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際しての地元業者への配慮	①地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①人員配置について	B	B	
	②職員の指揮監督・管理体制について	B	B	
	③人材育成の取組状況	B	B	

総合所見

施設管理面では、文化会館の指定管理が3年目となり、指定管理が8年目となる野田公民館及び中央コミュニティ会館と同様に、円滑な施設管理が図られた。法定点検、保守点検もほぼ問題なく施設管理業務が行われており、指定管理業務仕様書の要求水準を満たしていると考えられる。設備管理中で、現在、文化会館の火災報知設備及び非常放送設備の不具合が解消されておらず、市による改修工事が行われているが、31年3月の完了予定となっているため、ホールでは火災発生時に施設利用者に避難誘導のためのマイクを常に用意し、放送できる体制を整備するなどの対応が図られ、努力されている。今後とも、文化会館、野田公民館及び中央コミュニティ会館が互いに連携を図り、効率良く、高水準な施設管理を目指してもらいたい。

舞台業務については、催事により舞台技術者の増員が図られており、4月から12月の間で延べ90人の応援技術者が配置された。この間、大ホール、小ホールの一体的管理を行う中で、相互の施設間で職員の応援派遣を延べ20回行っており、施設利用者へのサービス向上及び経費縮減が図ら

れている。

事業面では、文化会館委託文化事業については、鑑賞型事業 3 事業、普及型事業 3 事業、参加型事業 2 事業を実施見込みであるが、鑑賞型 1 事業については、若者が多く集まる事業として、当初「朗読劇×オーケストラ 星の王子さま」を計画していたが、当該公演事務所と公演日の約半年から連絡が取れなくなり公演が不可能となったことから、急遽「よしもと新春大笑いまつり」と事業の入れ替えを行い、鑑賞型 2 事業以上、普及型 2 事業以上、参加型 2 事業以上の合計 8 事業の要求水準を満たすこととなった。ただし、9 月に開催した「天童よしみコンサート」では集客が図れず、約 350 万円のマイナス収支となっている。このことから 30 年度の事業収支は大きくマイナスとなる見込みで、今後は、収支バランスを保ちつつ、良質な公演の提供、若い人の動員、地元アーティストの発掘・支援に努めてもらいたい。

また、野田公民館の主催事業は計画された事業は全て実施される見込みで、「リフレッシュ健康講座」は、当初事業計画になかったが追加され実施された。自主事業では、計画された事業は実施される見込みで、「春風亭一之輔独演会」「沖縄のうたとおどり」の 2 事業が追加され、ともに 1 月に開催される。引き続き積極的に事業を展開してもらいたい。

次に収支状況であるが、指定管理料、施設利用料等の収入見込みが 252,981,696 円であるのに対し、文化会館、野田公民館、中央コミュニティ会館、樺のホール全体の支出が 262,233,706 円と見込んでおり、支出が収入を 9,252,010 円上回る見込みとなっている。マイナス収支となる主な要因としては、前述の文化会館委託文化事業「天童よしみコンサート」での約 350 万円の入場料収入不足と文化会館利用料金収入で約 660 万円の収入不足となっている。委託文化事業の入場料収入不足については、当該事業の準備も早くから行われていたが、公演の直前に近隣市において同公演が開催された影響もあり集客が図れなかったものである。利用料金収入の不足は、32 年 2 月・3 月に空調設備改修工事のため休館を予定しており、この間のホール等利用料金に係る影響額が約 220 万円、また、施設利用に係る利用料金を前年度と比較した減収額としては、市外主催者による有料公演が減ったことにより約 84 万円、市内主催者による有料公演が減ったことにより約 34 万円、自主事業の件数が減ったことにより約 70 万円、催事一般についてもカラオケ発表会 2 件減、講演会 4 件減となるなど利用の減少傾向にあり、前年と比べ年間で 20 件の利用減となる見込みから大幅な利用料金不足となる見込みとなっている。

なお、空調設備改修工事に係る利用料金の欠損については、指定管理者の責によらないことから、実績に基づき利用料金と工事休館に伴う支出経費の影響額とを清算することとしている。

最後に指定管理者の経営状況であるが、野田市文化会館・樺のホール活性化共同体を構成する 3 社、アクティオ株式会社、新生ビルテクノ株式会社、株式会社シグマコミュニケーションズの経営状況については、各社の平成 29 年における貸借対照表、損益計算書等により経営が安定しているものと評価する。

全体的には事業計画書に沿って管理運営がなされており、今後は、事業収入の健全化、施設利用件数の増加を目指し、文化会館、野田公民館及び中央コミュニティ会館の連携を密にし、さらなるサービス向上に努めてもらいたい。